

日本キリスト教関係文献集成

寺尾 寿芳
TERAO Kazuyoshi

はじめに

このリストは日本宗教史に関する基礎文献のうち、南山大学に所蔵されているキリスト教関係の文献を中心にまとめたものである。日本宗教史研究の初学者、なかでも日本語文献を読解できる外国人研究者が主要な読者層として想定されている。

このリストは、南山宗教文化研究所所員を中心とした日本学術振興会科学研究費プロジェクト「日本宗教史に関する基礎的な研究資料の編集刊行による研究の国際化の推進」(平成12-14年度)の一環として生み出されたものである。当初から単独での公表を予定していたわけではなかった。しかも現段階では資料蒐集に遺漏が散見され、また現行形式が最上のものと判断しているわけでもない。たとえば、事典類、プロテスタント関係文献等はいっそうの充実が不可欠であり、またウェブサイト類も掲載すべきだと考えている。しかしながら、あえて中間報告的に公表へと踏み切ったのは、さらに充実した資料集へと改良を加えるにあたり、読者諸賢のご意見やご批判を拝受したいと願ったためである。

南山宗教文化研究所は特筆すべき伝統として、国内外を問わず研究成果を広く公開し、関係分野の研究に貢献するという姿勢を貫き(南山宗教文化研究所編『宗教と宗教の〈あいだ〉』風媒社、2000年、370-93頁参照)また、その際、執筆編集段階から広く意見を集め、作成段階に反映させてきたという実績がある。当リストもこの末流に棹差すものである。

標題、著者・编者、発行地、出版元に関してアルファベット表記を併記したのは、外国人初学者における便宜を想定してのことである。すでにある程度日本語運用能力を身につけている場合でも、とくに漢字表

記の読みに関しては、しばしばその難しさを嘆く声上がる。標題、著者・编者に関してアルファベット表記を記載することで、日本語表記に関して若干の不安を抱えた場合でも、アプローチが可能となるのではなかろうか。さらには興味をひく文献を手早く拾い出すにあたっても有益だろう。

なお、今回は諸般の事情で間に合わなかったが、文献の内容紹介に関しても、いずれ英訳を期していることをあらかじめ公表しておきたい。

1 文献

A. 一次文献

A-1) 主要人物全集・著作集

AKAIWA Sakae Zenshū 赤岩栄著作集 9 vols. & i vol., Tokyo: Kyōbunkan, 1971–72.

赤岩栄は高倉徳太郎の影響のもと戦前のバルト神学への傾倒、戦後の共産主義や実存主義への関心といった信仰遍歴を重ねた人物。ことに戦後、キリスト教界を超えて著者が日本の知識人に与えた影響は無視できない。

ANESAKI Masaharu Chosakushū 姉崎正治著作集 10 vols. Tokyo: Kokusho Kankōkai, 1976.

東京大学初代宗教学講座教授である姉崎正治の著作集。第一期の切支丹関係が全5巻、第二期の仏教・宗教学関係が同じく全5巻の計10巻で構成されている。

ISHIHARA Ken Chosakushū 石原謙著作集 11 vols., Tokyo: Iwanami Shoten, 1978.

大正期から昭和期にかけて活躍した日本を代表するキリスト教・宗教哲学研究者の著作集。

ISHIJIMA Saburō Chosakushū 石島三郎著作集 4 vols., Tokyo: Kyōbunkan, 1978–79.

第1巻「神学研究」、第2巻「聖書研究」、第3巻「説教」、第4巻「エッセー」。

IWASHITA Sōichi Zenshū 岩下壮一全集 9 vols. & i vol., Tokyo: Chūō Shuppansha, 1961–64.

戦前日本カトリシズムの代表的思想家であり、かつハンセン氏病医療で活躍した神父の著作集。誤字脱字がかなり多い。

KAGAWA Toyohiko Zenshū 賀川豊彦全集 (editor: Kagawa Toyohiko Zenshū Kankōkai 賀川豊彦全集刊行会) 24 vols., Tokyo: Kirisutokyō Shinbunsha, 1963–64.

明治、大正、昭和にかけてキリスト教信仰に立脚しつつ、幅広く社会運動の領域で指導的地位にあった著者の全集。社会運動に限らず、神秘思想等さまざまな視点か

らの読み直しが可能となり、いっそうの研究が望まれる。

KANDŌ Zenshū カンドウ全集 (editor: IKEDA Toshio 池田敏雄) 5 vols. & ii vols., Tokyo: Chūō Shuppansha, 1970.

戦時期の一時を除く昭和期前半、日本にて活躍したパリー外国宣教会司祭カンドウ (Sauveur Antoine CONDAU) 神父の全集。その著述はすぐれた日本語能力に裏付けられたユーモアに満ちたものであり、当時多くの日本人を惹きつけた。

KINOSHITA Naoe Zenshū 木下尚江全集 (editor: YAMAGIWA Keiji 山極圭司) 18 vols., Tokyo: Kyōbunkan, 1990–99.

明治期に活躍した作家であり、社会運動家だった著者の全集。キリスト教の影響を受けながらも、さまざまな思想および宗教の影響の中で、独自の社会思想を展開している。

KOZAKI Hiromichi Zenshū 小崎弘道全集 (chief editor: SUZUKI Norihisa 鈴木範久) 6 vols., Tokyo: Nihon Tosho Sentā, 2000.

第二代同志社社長であり、『六合雑誌』等の発刊などに活躍し、近代日本のキリスト教伝道に多大な貢献をなした指導的キリスト者の全集。

KUMANO Yoshitaka Zenshū 熊野義孝全集 (editor: Kumano Yoshitaka Zenshū Kankōkai 熊野義孝全集刊行会) 12 vols. & ii vols., Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1977–84.

植村正久の影響を受けつつも、バルトの弁証法神学、トレルチの歴史的相対主義との取り組みに深く学んだ著者の全集。京都学派のキリスト教理解にも強い影響を与えており、今後いっそうの研究が望まれる。

Ōsui Kōroku 奥邃廣録 (author: ARAI Ōsui 新井奥邃) 5 vols. & i vol. Tokyo: Ōzorasha, 1991.

昭和6年 (1931年) に刊行された全集の復刻版。奥邃の著作の大半が収録されている。別巻では新井奥邃から直接薫陶を受けた人物、本全集の底本となった初版本の編者の息子、新井先生記念会幹事等、四名の談話とともに、新井奥邃関係文書目録を収めている。

ŌZONO Yoshioki Shinpu Ikōshū 大園義興神父遺稿集 (author: ŌZONO Yoshioki) 2 vols., Osaka: Ōzono Yoshioki Shinpu Ikōshū Kankōkai, 1981.

大阪教区司祭で英知大学副学長も勤めた大園義興神父の遺稿集。哲学、神学の他、日本文学、歴史、東洋宗教思想など広汎な領域にわたるエッセイを集成している。

SEKINE Masao Zenshū 関根正雄著作集 20 vols., Tokyo: Shinchi Shobō, 1979–89.

日本における旧約学の第一人者であり、無教会主義の系統にある著者の著作集。

SUZUKI Masahisa Chosakushū 鈴木正久著作集 (editor: Suzuki Masahisa Chosakushū Kankō Inkai 鈴木正久著作刊行委員会) 4 vols., Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1980.

メソジスト教会出身で、日本基督教団創立時から深く関わり、1967年に著名な「第二次世界大戦下における教団の責任の告白」を議長名で発表した著者の著作集。最終巻には自伝、日記、書簡、年譜が収録されている。

TOZUKA Bunkei Chosakushū 戸塚文卿著作集 5 vols. & i vol., Tokyo: Chūō Shuppansha, 1964–67.

昭和初期に活躍した医師でありカトリック司祭であった著者の著作集。医療福祉活動に従事しつつ著した多くの信仰著作が収められている。基本的に伝統的なカトリシズムの立場に立脚している。なお別巻は、小田部胤明による伝記『戸塚神父の生涯 神に聴診器をあてた人』

TSUKAMOTO Toraji Chosakushū 塚本虎二著作集 10 vols., Tokyo: Seisho Chishikisha, 1978–79.

内村鑑三の晩年期最愛の弟子であり、のちに決裂した塚本の著作集。

UCHIMURA Kanzō Danwa 内村鑑三談話 (editor: SUZUKI Norihisa 鈴木範久) 1 vol., Tokyo: Iwanami Shoten, 1984.

全集から原則として除外された説話のなかから、内村の生前に発表されたものによって収録されている。内容は実に多岐にわたっており、内村の実像をイメージするのに有益な文献である。

UCHIMURA Kanzō Eibun Ronsetsu Honyaku-hen 内村鑑三英文論説翻訳篇 2 vols., Tokyo: Iwanami Shoten, 1984–85.

上巻は亀井俊介の訳で、明治19年（1886年）から明治30年（1897年）までの論説を収める。巻末には訳者による訳注と解説あり。下巻は道家弘一郎の訳で、明治31年（1898年）から昭和3年（1928年）までの論説を収録している。他に鈴木範久編『内村鑑三談話』岩波書店、1984年、全352頁がある。

UCHIMURA Kanzō Senshū 内村鑑三選集 8 vols. & i vol., Tokyo: Iwanami Shoten, 1990.

内村鑑三の著作のなかから主要テーマごとに日本語で主だった作品をまとめ直した著作選集。岩波書店版の全集に典拠している。

UCHIMURA Kanzō Shinkō Chosaku Zenshū 内村鑑三信仰著作全集 (editor:

YAMAMOTO Taijiro 山本泰次郎) 25 vols., Tokyo: Kyōbunkan, 1962.

岩波版全集とは異なり、編年体ではなく、テーマごとに著作がまとめられている。大別して、著作篇、教理篇、実践・人生篇の三つに分かれている。

UCHIMURA Kanzō Zenshū 内村鑑三全集 40 vols, Tokyo: Iwanami Shoten, 1981–84.

発表順に収録した編年体の全集。同じ岩波書店が昭和7年(1932年)に刊行した全集に未収録のものが40点含まれており、「別篇」の多くは今回初めて紹介されたものとなる。

YAGI Jūkichi Zenshū 八木重吉全集 3 vols., Tokyo: Chikuma Shobō, 1982.

キリスト教信仰に立脚する詩人としては最も著名な著者の全集。教条主義的な硬直性からいっさい自由な柔軟で透明感溢れる作品群は文学の世界を超えて広い影響を与えている。なお、同じ出版社から文庫版も刊行されている。

YAMAMURO Gunpei Senshū 山室軍平選集 (editor: YAMAMURO Takeyasu (?) 山室武甫) 10 vols. & i vol., Tokyo: Nihon Tosho Sentā, 1995 (original: 1951–54).

明治、大正、昭和にかけて活躍し、日本における救世軍創生期を担った指導者の著作集。長男山室武甫による編集で、编者による解説が巻末に収録されている。

YOSHIMITSU Yoshihiko Zenshū 吉満義彦全集 (editor: Kōdansha Shuppan Kenkyū-sho 講談社出版研究所) 5 vols., Tokyo: Kōdansha, 1984.

近代日本が生んだカトリック思想家としては最も著名な人物の全集。ネオ・トミズムの流れにありながら、独自の力動的なヒロイズムによってアウグスティヌスとトマス・アクィナスを統合しようとした。ただし「全集」という名称にもかかわらず、第二次世界大戦の時局に関する論考を中心に遺漏が認められる。

Yozefu ROGGENDORFU Ikkan Senshū ヨゼフ・ロゲンドルーフ巻選集, Tokyo: Nansōsha, 1988.

ドイツ生まれのイエズス会士で、1940年から日本で活躍したヨゼフ・ロゲンドルーフ (Joseph ROGGENDORF) 神父の著作集。教養深いヨーロッパ人の目から見たすぐれた日本文化論にもなっている。宗教・思想篇と文学・言語篇の二部からなる。

A-2) 主要人物単著

Doyō Gakkō Kōgi 土曜学校講義 10 vols. (author: YANAIHARA Tadao 矢内原忠雄, editors: YANAIHARA Isaku 矢内原伊作、FUJITA Wakao 藤田若雄) Tokyo: Misuzu Shobō, 1969–72.

内村鑑三門下の無教会キリスト者として最も著名な著者が戦時下の1938年より自宅で開催したキリスト教古典講義の記録。テキストとしてアウグスティヌスの『告白』

や『神の国』、ダンテの『神曲』、ミルトンの『失楽園』などが取り上げられた。

Kashiwagi Gien Nikki 柏木義円日記 (editors: IINUMA Jirō 飯沼次郎、KATANO Masako 片野真佐子) Ōtsu: Kōrosha, 1998.

Kirisutosha no Shinkō I キリスト者の信仰 (author: YANAIHARA Tadao 矢内原忠雄), Tokyo: Iwanami Shoten, 1981.

岩波版全集をもとに、キリスト教信仰に関する主要な論考、エッセイ、短文をまとめたもの。

Meiji no Nihon Harisutosu Seikyōkai: Nikorai no Hōkokusho 明治の日本ハリストス正教会ニコライの報告書 (editor & translator: NAKAMURA Kennosuke 中村健之介) Tokyo: Kyōbunkan, 1993.

日本ハリストス正教会創建者であるニコライが日本伝道開始 8 年目の 1878 年に、伝道の成果を本国ロシアに報告するとともに、新たな支援を要請するために著した報告書の翻訳。

Nihon de Yonjūnen 日本で四十年 (author: Heruman HOIBERUSU [Hermann HEUVERS]) Tokyo: Shunjūsha, 1969.

戦前から戦後にかけて日本宣教に多大な足跡を残したドイツ人イエズス会司祭の回想録。

Nihon Iezusukaishi Reihō Shishin 日本イエズス会士礼法指針 (author: VARINYĀNO [VALIGNANO], translator: YAZAWA Toshihiko 矢沢利彦・Tsutsui Suna(?) 筒井砂訳) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi Daigaku), 1970.

キリシタン期日本におけるカトリック布教で指導的立場にあったヴァリニャーノが宣教指針を述べたもの。イタリア語原文からの翻訳。キリシタン研究の第一人者であるチースリク (イエズス会司祭) による解説とヴァリニャーノ伝が収録されている。

Nihon Junkyō-roku 日本殉教録 (Peduro MOREHON [Pedro MOREJON] ペドゥロ・モレホン、佐久間正) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi daigaku), 1974.

江戸幕府成立期のキリシタン迫害について、当時のイエズス会日本管区総代表モレホンが日本追放後にまとめたもの。著者追放後の迫害が日本からの報告書に基づいて述べられている。原書はスペイン語で、1616年にメキシコで公表された。本書には続編も刊行されている (本篇の前年 1973 年に同発行所から)

Nihon Junsatsu-ki 日本巡察記 (author: VARINYĀNO [VALIGNANO] ヴァリニャーノ、

translator: MATSUDA Kiichi 松田毅一他 et al.) Tokyo: Heibonsha, 1973.

『日本諸事要録』(1583年)と『日本諸事要録補遺』(1592年)が収録されている。その他、解題として訳者による二本の論説を収めている。

Nihon Kirishitan Kyōkai-shi 日本キリシタン教会史 (author: ORUFĀNERU [Iacinto ORFANEL] オルファネル、translator: IDE Katsumi 井出勝美) Tokyo: Yūshōdō, 1977.

江戸幕府成立期、九州で活躍したドミニコ会士で、1622年長崎で殉教したヤシント・オルファネルが上長の命を受けて著述したもの。原題：P. Fray Iacinto Orfanel, *Historia Eclesiastica de los Sucessos de la Chrsiandad de Japon, desde el año de 1602. Que entro en el la Orden de Predicadores, hasta el de 1620*, Madrid 1633.

Nihon-shi 日本史 (author: FUROISU [Luis FROIS] フロイス、translator: MATSUDA Kiichi 松田毅一・KAWASAKI Momota 川崎桃太, Tokyo: Chūō Kōronsha, 1977.

16世紀後半に三十余年滞日し、織田信長、豊臣秀吉ら為政者から庶民に至るまで幅広い交流をもったポルトガル人宣教師ルイス・フロイスによる滞日記録。ポルトガル語原点からの翻訳。脚注つき。最終巻に翻訳に当たっての引用参照文献や年表、総索引が収録されている。

A-3) 文献集成

Dochirina Kirishitan Sōsakuin どちりなきりしたん総索引 (editor: KOJIMA Yukie 小島幸枝) Tokyo: Kazama Shobō, 1971.

慶長5年(1600年)長崎版国字本どちりなきりしたん(ローマ・カサナンテ図書館蔵)の真製版および総索引。

Gendaigoyaku・Kirishitan Chishio no Kakioki 現代語訳・切支丹鮮血遺書 (editor: MATSUZAKI Minoru 松崎實) publisher: SHIRAI Takayuki 白井隆之, 1996.

レオン・パジェスの『日本基督教史』(Léon Pagés, *Histoire de Religionne Chretienne au Japon*, 1869)を明治中期に宣教師ビリオン(Père A. Vilion)がこれをテキストとし、説教したものを信徒であった加古義一が筆記し、編集し出版した『鮮血遺書』(明治20年)の現代語訳。

Jūroku/hichi Seiki Iezusukai Nihon Hōkokushū (Dai 1-ki) 十六・七世紀イエズス会日本報告集(第一期)(chief translator: MATSUDA Kiichi 松田毅一) 5 vols., Kyoto: Dōbōsha Shuppan, 1987.

古刊本をテキストとして、1549年のザビエル渡日から1630年頃までのイエズス会士による年報およびその補遺を順次邦訳し刊行したもの。教会史研究者向け第一次資料というよりも、日本史一般および読書界のニーズに応えたものと編者は謳う。

Kirishitan-ban Giyadopekadoru: Honbun・Sakuin (Dainisatsu: Bunmyakutsuki Sakuin-hen・Seishoinshōsakuin-hen) キリシタン版ぎやどぺかどる：本文・索引（第二冊：文脈付き索引篇・聖書引照索引篇）(editor: TOYOSHIMA Masayuki 豊島正之) Osaka: Seibundō Shuppan, 1987.

第一冊の本文篇に対する索引篇。

Kirishitan-ban Giyadopekadoru: Honbun・Sakuin (Daiissatsu: Honubun-hen・Kanjisakuin-hen) キリシタン版ぎやどぺかどる：本文・索引（第一冊：本文篇・漢字索引篇）(editor: TOYOSHIMA Masayuki 豊島正之) Osaka: Seibundō Shuppan, 1987.

1599年刊国字本キリシタン版「ぎやどぺかどる」本文の語学的次元での「読み」を、その読みの根拠とともに提示すること、つまりテキストの確定を目的とする。

Kirishitan Bungaku-shō 切支丹文学抄 (author: MURAOKA Noritsugu 村岡典嗣) Tokyo: Kaizōsha, 1926.

近代日本のアカデミズムにおいて日本思想史研究という分野を確立した第一人者による主なキリシタン文学（さん・ぺいとろの御作業など）の抄録および編者による解題、付録（字集、用語集など）が収められている。

Kirishitan Sho: Haiya Sho キリシタン書 排耶書 (editor: EBISAWA Arimichi 海老沢有道、H. Chisuriku、DOI Tadao 土井忠生、ŌTSUKA Mitsunobu 大塚光信) Tokyo: Iwanami Shoten, 1970.

キリシタン時代の日本思想史上の主要著作を集成したものとしては、最も権威の高いシリーズである日本思想体系の第25巻に収められている。キリシタン側と反キリシタン側の双方から収録されている。註記が充実している。

Kōhon Dochirina Kirishitan 校本どちなきりしたん (editor: KOJIMA Yukie 小島幸枝) Fukui: Fukui Kokugogaku Gurūpu, 1966.

「どちなきりしたん」のローマ字本と国字本を逐語対照的に併記した校本。福井大学国語学研究室に生まれた福井国語学グループによって作成された。

Mikotoba ni Tachi, Onrei ni Michibikarete: Nihon Assenburī Obu Goddo Kyōdan Sōritsu 50 nen-shi みことばに立ち、御霊に導かれて 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団創立50年史 (editor: Nihon Assenburī Obu Goddo Kyōdan Kyōdanshi Hensanshitsu 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教団史編纂委員会) Tokyo: Nihon Assenburī Obu Goddo Kyōdan, 1999.

教団史の他に、各国のアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団からの祝辞、「基本的真理に関する宣言」、「全国の教会、伝道所の紹介」（200頁以上に及ぶ）や年表を収

録している。

Nihon Kankei Iezusukai Genbunsho 日本関係イエズス会原文書 (editor: MATSUDA Kiichi 松田毅一) Kyoto: Dōbōsha Shuppan, 1987.

京都外国語大学附属図書館に所蔵されているイエズス会の日本関係古文書4点の原文と翻訳。ルイス・フロイスによるイエズス会総長宛文書(1587年8月5日付)等が収録されている。

Nihon Kirisutokyōdan-shi Shiryōshū 日本基督教会歴史資料集 (editor: Nihon Kirisuto Kyōdan Senkyō Kenkyūsho Kyōdan Shiryō Hensanshitsu 日本基督教団宣教研究所教団史料編纂室) 4 vols., Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Senkyō Kenkyūsho, 1997.

資料に加えて、各篇に「概観」、各章に「解説」、各節に「解題」が付せられているほか、それぞれ必要に応じて「参考資料」、「研究文献」が掲載されている。

Nihon Kirisutokyōkai Rekishi Shiryōshū 日本基督教会歴史資料集 4 vols., Kyoto/Hakodate: Nihon Kirisutokyōkai Rekishi Hensan Iinkai, 1977-85 (?).

近代日本で最も古くから宣教を開始した教団の基本的史料を集成したもの。第4巻には1890年改正憲法規則とともにインブリー(William Imbrie)による憲法釈義が収録されている。日本最古のプロテスタント教会のひとつである日本基督教会の基礎を形成した会憲の原典を復刻したもので、巻末に幸日出雄による解説が付せられている。第7巻、第8巻にはG.F.フルベッキ(Guido Herman Fredolin Verbeek 米: Verbeck)による1883年大阪で開催された日本プロテスタント宣教師協議会総会議事録所収のレポートを全訳したものである。原題は、G. F. Verbeck, "History of Protestant Mission in Japan," in: *Proceedings of the General Conference of Protestant Missionaries of Japan*, 1883.

Nihon Nijūroku Seijin Junkyōki 日本二十六聖人殉教記 (author: Reon PAZESU [Léon PAGÉS]) Tokyo: Iwanami Shoten, 1931.

1862年にパリで刊行された北京駐在のフランス公使付外交官レオン・パゼスによる日本二十六聖人殉教者記録(*Histoire des Vingt-six Martyrs Japonais*)の翻訳。

Nihon-Vachikan Gaikōshi 日本・ヴァチカン外交史 (author: TAKAGI Kazuo 高木一雄) Tokyo: Seibo no Kishi-sha, 1984.

ローマ教皇庁と明治以降の日本政府との関係史にかかわる基本的史料の集成。

Nikkan Kirisutokyō Kankeishi Shiryō 日韓キリスト教関係史資料 (editor: OGAWA Keiji 小川圭治, Ji Myonkwan 池明観) 2 vols., Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1984.

日本のプロテスタントの雑誌、新聞から日韓キリスト教会交渉に関する資料を集成

したもの。ただし内村鑑三関係の資料のみ例外。

Satsuma Kirishitan Shiryō Shūsei 薩摩切支丹史料集成 (author: SHIGENO Yūkō 茂野幽考) Kagoshima: Minami Nihon Shuppan Bunka Kyōkai, 1966.

南蛮貿易から幕末期諸外国との交渉、さらにはカトリック復活に至るまでの薩摩藩のキリスト教史に関する史料及び解題による簡潔な通史。

Senjika no Kirisutokyō Undō 戦時下のキリスト教運動 (editor: Dōshisha Daigaku Jīnbunkagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究所、Kirisutokyō Shakai-mondai Kenkyūsho キリスト教社会問題研究会) 3 vols., Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1972.

戦時下キリスト教諸教会の動向を迫害する側の視点からまとめた資料集。1936年から1944年までの編年体を採用している。

Taishō-Shōwa Katorikku Kyokai-shi 大正・昭和カトリック教会史 (author: TAKAGI Kazuo 高木一雄) 4 vols., Tokyo: Seibo no Kishisha, 1984.

大正、昭和期のカトリック教会をめぐる歴史的証言を集成した資料集。第1巻では天皇制国家との軋轢で生じた諸事件を扱う。第2巻では戦時期国家体制への教会側からの対応を主に教育事業に焦点を当てつつ扱う。第3巻では逼迫する戦時下での教会の厳しい事情を示す史料を集めている。敗戦後の自由化や修道会の概況についても扱われている。第4巻では台湾、満州、朝鮮などの植民地におけるカトリック教会の活動を示す史料を取り扱っている。

Yasokai no Nihon Nenpō 耶蘇会の日本年報 (translator: MURAKAMI Naojirō 村上直次郎) Tokyo: Takuhondō, 1943.

日本各地に在留していたイエズス会士の書簡をとりまとめて年報として総長宛に送られたものの内、1581年度以降のものは日本通信と題されている。この部分の翻訳と訳注。

Yaso Shūmon Kongenki 耶蘇宗門根元記 (editor: Kyō Tokujirō 京篤二郎) Nagoya: Nagoya Kirishitan Bunka Kenkyūkai, 1994.

1973年に愛知県江南市の旧家から発見された『耶蘇宗門根元記』と題する写本三冊を活字にしたもの。排耶書のなかでも一般大衆のあいだにキリシタン邪宗門の観念を広めようとした通俗的なもので、このジャンルには本格的な研究が無く、貴重な資料となっている。参考文献表等も付せられている。

B) 二次文献

B-1) 一般史

Nihon Kirisutokyō-shi 日本キリスト教史 (author: GONOI Takashi 五野井隆史)
Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1990.

歴史学の立場から日本のキリスト教史を概観したものだが、その大半をキリシタン史の解説に充てている。文献目録はなし。

Nihon Kirisutokyō-shi o Yomu 日本キリスト教史を読む (author: SHIONO Kazuo 塩野和夫) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1997.

日本キリスト教史の最も簡明な概説書。明治以降の比重が高い。人名、地名をはじめ多くの語彙にルビが振られており、年表も収められるなど、初学者への配慮が行き届いている。

Nihon no Kindaika to Kirisutokyō 日本の近代化とキリスト教 (editor: Dōshisha Daigaku Jinbunkagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究所、Kirisutokyō Shakaimondai Kenkyūkai キリスト教社会問題研究会) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1973.

明治以降における近代化の過程でキリスト教が社会思想および社会運動の領域に与えた影響を扱っている。執筆者はこの分野における第一人者である。

B-2) 各教会史

B-2.1) カトリック (キリシタン期)

Bakuhansai Seiritsu to Kirishitan Kinsei 幕藩制成立とキリシタン禁制 (author: MURAI Sanae 村井早苗) Tokyo: Bunken Shuppan, 1987.

Chihō Kirishitan no Hakkutsu 地方切支丹の発掘 (author: EBISAWA Arimichi 海老沢有道) Tokyo: Kashiwa Shobō, 1976.

この分野の第一人者による小論・雑稿の集成。キリシタン関係地方資料の紹介を主としている。著者の年譜と著作目録を収録している。

Fumie: Kinkyō no Rekishi 踏絵 禁教の歴史 (author: KATAOKA Yakichi 片岡弥吉) Tokyo: Nihon Hōsō Shuppan Kyōkai, 1969.

キリシタン弾圧史のうち踏絵に焦点を絞った入門的概説書。

Jūrokuseiki Kirishitan-shi-jō no Senrei Shiganki 十六世紀キリシタン史上の洗礼志願期 (author: Ropesu GAI [Jesús López GAY, S.J.] ロペス・ガイ) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi Daigaku), 1973.

堅実な日本キリシタン史研究家であるスペイン人イエズス会士による入信過程ことに洗礼についての研究書。欧文一次史料の一覧も収録されている。

Kirishitan Bunka-shi Tenbyō: Kyōiku · Shuppan · Iryō キリシタン文化史点描 教

育・出版・医療 (author: SUKENO Kentarō 助野健太郎) Tokyo: Natsumesha, 1956.

16世紀日本において活躍したイエズス会士たちが行った文化的活動のうちから、教育、出版、医療に関する功績をとりあげて論じたもの。ただし教育について小学校教育のみにふれている。

Kirishitan Densetsu Hyakuwa キリシタン伝説百話 (author: TANI Shinsuke 谷真介) Tokyo: Chikuma Shobō, 1996 (Bunko version).

禁教期に土着した幅広いキリシタン伝説を年代順に配列し、時代背景や関連事項を付したもの。

Kirishitan ga Mita Shinshū キリシタンが見た真宗 (editor: Shinsū Kaigai Shiryō Kenkyūkai 真宗海外史料研究会) Kyoto: Shinshū Ōtaniha Shūmusho Shuppanbu (Higashi Honganji Shuppanbu), 1998.

キリシタンが類似点をしばしば指摘される浄土真宗をどのように理解していたのかを知るのに格好の文献である。日本語訳が刊行されているキリシタン資料が基礎となっている。巻末に参考文献や略年表、資料編が収録されている。

Kirishitan Jidai no Joshi Shūdōkai: Miyako no Bikunitachi キリシタン時代の女子修道会 みやこの比丘尼たち (author: KATAOKA Rumiko 片岡瑠美子) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi Daigaku), 1974.

キリシタン期日本で内藤ジュリアを中心に活躍した日本人女子修道会の研究。当時彼女たちを指導する立場にあったイエズス会士たちの著述をもとに、その歴史と修道生活をたどっている。

Kirishitan Jidai no Chishikijin: Hikyō to Junkyō キリシタン時代の知識人 背教と殉教 (authors: ENDŌ Shūsaku 遠藤周作, MIURA Shumon 三浦朱門) Tokyo: Nihon Keizai Shinbunsha, 1967.

著名な作家による人物史。高山右近やファビアンらを扱う。

Kirishitan Jidai no Kenkyū キリシタン時代の研究 (author: TAKASE Kōichirō 高瀬弘一郎) Tokyo: Iwanami Shoten, 1977.

大航海時代のキリスト教世界布教を背景におきつつ、イエズス会の日本布教を経済活動に焦点を当てつつ解明したもの。この分野における代表的な著作である。

Kirishitan Jidai Taigaikankei no Kenkyū キリシタン時代対外関係の研究 (author: TAKASE Kōichirō 高瀬弘一郎) Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1994.

キリシタン教会の貿易活動をテーマに堅実な実証主義的立場から叙述した研究書。

Kirishitan Jinbutsu no Kenkyū: Hōjin Shisai no Maki キリシタン人物の研究 邦人司祭の巻 (author: H. CHĪSURIKU [Hubert CIESLIK] H.・チースリク) Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1963.

著名なキリシタン研究家による日本人司祭研究。セバスチャン木村、アントニヨ石田、ペドロ・カスイ岐部の三名を取り上げている。

Kirishitan Kenkyū キリシタン研究 (editor: Kirishitan Bunka Kenkyūsho キリシタン文化研究所) Tokyo: Tōkyōdō, 1939- .

昭和14年(1939年)に設立されたキリシタン文化研究所によるキリシタン研究誌。年刊。

Kirishitan Kenkyū: Dainibu Ronkō Hen キリシタン研究 第二部論攷篇 (author: MATSUDA Kiichi 松田毅一) Tokyo: Kazama Shobō, 1975.

Kirishitan Nanban Bungaku Nyūmon キリシタン南蛮文学入門 (author: EBISAWA Arimichi 海老沢有道) Tokyo: Kyōbunkan, 1991.

キリスト教の日本伝来に関する第一人者による南蛮文学概説書。全般を概観する前篇と類型的(教理、祈祷等)に関する後篇とからなる。

Kirishitan no Jidai: Sono Bunka to Bōeki キリシタンの時代 その文化と貿易 (author: OKAMOTO Yoshitomo 岡本良知) Tokyo: Yagi Shoten, 1987.

Kirishitan no Seiki: Zabieru Tonichi kara "Sakoku" made キリシタンの世紀 ザビエル渡日から「鎖国」まで (author: TAKASE Kōichirō 高瀬弘一郎) Tokyo: Iwanami Shoten, 1993.

キリシタン史専攻の慶応大学教授による概説書。元来は通信教育のテキストとして執筆されたものを増補したもの。

Kirishitan no Shinwateki Sekai キリシタンの神話的世界 (author: KAMIYA Takehiro 紙谷威広) Tokyo: Tōkyōdō Shuppan, 1986.

民俗学の立場からのキリシタン研究。キリシタンに共通する強烈な信仰を支える意識の理解のため、その独自の信仰を、かれらの神話的伝承である『天地始之事』のなかから探り出そうとしたもの。

Kirishitanshi no Kenkyū 切支丹史の研究 (author: EBIZAWA Arimichi 海老沢有道) Tokyo: Unebi Shobō, 1942.

日本を代表するキリシタン研究者の手になるもの。国民思想との関係や日本の「世界史的発展的性格」を念頭に置いており、刊行当時の日本の精神史的動向と軌を一としている。

Kitishitanshi no Shinhakken キリシタン史の新発見 (editors: KISHINO Hisashi 岸野久, MURAI Sanae 村井早苗) Tokyo: Yūzankaku, 1995.

海老沢有道門下生によるキリシタン史の学術的成果。琉球におけるキリシタン問題を扱っており貴重である。

Kirishitan to Sadō キリシタンと茶道 (author: NISHIMURA Tei 西村貞) Tokyo: Zenkoku Shobō, 1948.

茶道成立時のキリシタンによる影響とその後の切支丹灯籠について扱っている。

Kirishitan Yashiki Monogatari 切支丹屋敷物語(author: KUBOTA Akiharu 窪田明治) Tokyo: Yūzankaku Shuppan, 1970.

江戸期に改宗を拒んだキリシタンが収容されたキリシタン屋敷に関する一般的通史。キリシタン灯籠も扱っている。図版も多く収録されている。

Kirisutokyō Dochakukaron: Kitishitanshi o Haikei toshite キリスト教土着化論 キリシタン史を背景として (author: FUJII Yoshinori 葛井義憲) Tokyo: Asahi Shuppansha, 1979.

開教期から明治時代の解禁にいたるキリシタンの存在意味を権力者の掲げる国家観、人間観との関係から考察したもの。

Nanbanjin no Nihon Hakken 南蛮人の日本発見(author: MATSUDA Kiichi 松田毅一) Tokyo: Chūō Kōronsha, 1982.

Nanban Shūzoku-kō 南蛮宗俗考 (author: OKADA Akio 岡田章雄) Tokyo: Chijin Shokan, 1942.

文化史を中心とした東西交渉史研究のひとつ。とりわけキリスト教が武士、農民の社会意識や生活感情にどのような影響を与えたか、鎖国に先立つ時代の様子を西洋側に残る資料に基づいて再構成する。

Nihon Katorikku Kyoshi 日本カトリック教史 (author: MIKI Rofū 三木露風) Tokyo: Daiichi Shobō, 1929.

著名な文筆家による、キリシタン期を中心としたカトリック教会布教史の一般的概説書。

Nihon Kirishitan Junkyōshi 日本キリシタン殉教史 (author: KATAOKA Yakichi 片岡弥吉) Tokyo: Jiji Tsūshinsha, 1979.

日本におけるキリシタン研究を長年リードしてきた第一人者による文字通りの殉教史で、概説書としては最も詳しいもののひとつ。著者本人も明治初期のキリシタン弾圧を受けた長崎キリシタンの末裔である。

Nihon Kirishitan no Sei to Zoku 日本キリシタンの聖と俗 (author: SAKAMOTO Masayoshi 坂元正義) Tokyo: Meicho Kankōkai, 1981.

不干斎ファビアンを題材に、思想における西欧と日本の本質的対比を炙り出した歴史論。巻末に年表と参照文献リストが収録されている。

Nihon Kirishitanshi 日本キリシタン史 (author: EBISAWA Arimichi 海老沢有道) Tokyo: Hanawa Shobō, 1966.

著名なキリシタン研究家による標準的な入門書。キリスト教と日本の伝統的思想および社会体制との接触にも言及されている。

Nihonshi Shōhokka・Kirishitan 日本小百科・キリシタン (director: H. CHISURIKU [Hubert CIESLIK], editor: ŌTA Yoshiko 太田淑子) Tokyo: Tōkyōdō Shuppan, 1999.

「キリシタン」を概観できる便利な小百科。項目ごとにやさしく解説されており、「読む」事典になっている。図版、年表、参考文献等も適度に充実しており、初学者にとって親切な内容となっている。

Shoki Kirishitan Jidai no Junbi Hukuin Senkyō 初期キリシタン時代の準備福音宣教 (author: Ropesu GAI [Jesús López GAY, S.J.] ロペス・ガイ) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi Daigaku), 1980.

堅実な日本キリシタン研究家であったスペイン人イエズス会士による宣教初期課程(本格的なカテキズム教育へ至る前段階)に関する簡潔な文献学的な研究。

Tennō to Kirishitan Kinsei: "Kirishitan no Seiki" niokeru Kenryoku Tōsō no Kōzu 天皇とキリシタン禁制 「キリシタンの世紀」における権力闘争と構図 (author: MURAI Sanae 村井早苗) Tokyo: Yūzankaku Shuppan, 2000.

豊臣家および徳川三代(家康、秀忠、家光)とキリシタンの関係を概観する入門書。系図や図版も多く収録されており、イメージを掴むのに適している。

Tokugawa Shoki Kirishitan-shi Kenkyū (Zōhoban) 徳川初期キリシタン史研究(増補版) (author: GONOI Takashi 五野井隆史) Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1983.

「付録」として「史料紹介」(翻訳)が付いている。1.イエズス会日本準管区の総会長宛書簡、2.イエズス会総会長宛『1607年度日本年報』(抄訳)

"Tōyō no Shito" Zabieru: Daikōkai Jidai niokeru Yōroppa to Ajia no Deai 「東洋の使徒」ザビエル 大航海時代におけるヨーロッパとアジアの出会い (editor: Zabieru Tōrai Yonhyaku-gojū Shūnen Kinen Gyōji Inkaikai ザビエル渡来450周年記念行事委員会) Tokyo: Jōchi Daigaku (Sophia University), 1999.

1998年度国際シンポジウムに基づいたもので、文化的出会いの視点から研究論考を多数収録している。

Varinyāno to Kirishitan Shūmon ヴァリニャーノとキリシタン宗門 (author: MATSUDA Kiichi 松田毅一) Tokyo: Chōbunsha, 1992.

現代日本人キリシタン研究者の第一人者による信頼できるヴァリニャーノ評伝。

Zabieru to Nihonjin: Kirishitan Kaikyōki no Kenkyū ザビエルと日本 キリシタン開教期の研究 (author: KISHINO Hisashi 岸野久) Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1998.

ザビエルの来日以前から鹿児島滞在期までを対象に、開教期の諸問題についての考察、ことに布教構想や日本人通訳や布教協力者の研究が充実している。

B-2.2) カトリック (幕末・明治以降)

Katorikku Dochaku: Kirishitan no Matsuei tachi カトリック土着 キリシタンの末裔たち (author: MARUYAMA Kōichi 丸山孝一) Tokyo: Nihon Hōsō Shuppan Kyōkai, 1980.

長崎県五島における現代カトリック信徒たちの習俗に関する簡明なフィールドワーク的な研究。 真も多く収録されている。

Katorikku Kanda Kyōkai Hyakunen no Ayumi カトリック神田教会百年のあゆみ (editor: Kanda Kyōkai Hyakunen no Ayumi Henshū Inkaï) Tokyo: Katorikku Kanda Kyōkai Sōristsu Hyakushūnen Shukuga Inkaï, 1974.

東京教区の中核教会である神田教会の百年史。貴重な写真類も収録されている。

Katorikku Kyōkai no Sensō Sekinin カトリック教会の戦争責任 (author: NISHIYAMA Toshihiko 西山俊彦) Tokyo: San Pauro, 2000.

戦時期日本のカトリック教会がみせた戦争への協力的態度や満州国承認問題を実証的に批判、分析したもの。

Kirishitan no Fukkatsu 切支丹の復活 (author: URAKAWA Wasaburō 浦川和三郎) 2 vols., Tokyo: Kokusho Kankōkai, 1979.

原本は同名で昭和2年(1927年)に日本カトリック刊行会から出版された。

Meiji Katorikku Kyōkai-shi Kenkyū 明治カトリック教会史研究 (author: TAKAGI Kazuo 高木一雄) 3 vols., Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai (Jōchi Daigaku), 1974.

明治期のカトリック復活を一時史料にあたりながら堅実に概観したもの。

Seidō no Hinomaru: Amami Katorikku Hakugai to Tennōkyō 聖堂と日の丸 奄美カトリック迫害と天皇教 (author: MIYASHITA Masaaki 宮下正昭) Kagoshima: Nanpō Shinsha, 1999.

アジア太平洋戦争中、軍部による奄美大島のカトリック教会迫害を、ミッションスクール大島高等女学校排撃事件を中心に叙述したもの。当時のマスコミの情報操作による迫害協力が扱われている。

Shōwa Jidai no Senpuku Kirishitan 昭和時代の潜伏切支丹 (author: TAGITA Kōya 田北耕也) Tokyo: Kokusho Kankōkai, 1978.

キリシタンの子孫が解禁後も潜伏している事実を紹介するために著者が長崎を巡って収集したさまざまな証言を歴史民俗学的にまとめた大著。

Uragami Kirishitan Ruhai Jiken: Kirisutokyō Kaikin eno Michi 浦上キリシタン流配事件 キリスト教解禁への道 (author: IECHIKA Yoshiki 家近良樹) Tokyo: Yoshikawa Kōbunkan, 1998.

明治初年の弾圧事件を対象に、政治と宗教との微妙な関係を読み解いている。

B-2.3) プロテスタント

Amerika Hujinsenkuyōshi: Rainichi no Haikei to Sono Eikyō アメリカ婦人宣教師来日の背景とその影響 (author: KOHIYAMA Rui 小檜山ルイ) Tokyo: Tōkyō Daigaku Shuppankai, 1992.

1870～80年代にアメリカより来日し、日本における近代女子教育をリードした女性宣教師に関する学術的研究。類書の無い貴重な研究である。

Kindai Nihon Shakai to Kirisutokyō 近代日本社会とキリスト教 (editor: Sugii Rokurō Sensei Taishoku Kinenjigyōkai 杉井六郎先生退職記念事業会) Kyoto: Dōbōsha, 1989.

同志社大学関係を中心とした五十余名による広汎な日本近代プロテスタント教会史論集。

Kumamoto Bando Kenkyū: Nihon Purotesutantwizumu no Ichigenryū to Tenkai 熊本バンド研究 日本プロテスタンティズムの一元流と展開 (editor: Dōshisha Daigaku Jinbun Kagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究所) Tokyo: Misuzu Shobō, 1965.

極力原資料に基づいた論集。各論では小崎弘道、海老名弾正らの人物を取り上げている。資料には主要参考文献目録や写譜等を含む。

Kyodan o Kataru 教団を語る (editor: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku)

Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1971.

日本基督教団出版局が企画して、1970年1月に行われた座談会の記録。

Monogatari Nihon Kirisutokyō-shi: Nichibei Kirisutosha Gunzō o Tadoru 物語日本キリスト教史 日米キリスト者群像を辿る (author: SHIMO Mochinobu 志茂望信)

Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1998.

近代日本開国期からベトナム戦争期頃までにおよぶ日本プロテスタント教派についての広範な通史。

Mukyōkaishi 無教会史 (editor: Mukyōkaishi Kenkyūkai 無教会史研究会) 3 vols, i vol. (III's supplement), Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1993–95.

無教会通史としては最初のもの。年代史的手法を目指しているが、出来事中心の問題史的記述となっている。1988年に発足した無教会研究会による自己検証としての性格がつよい。付録として略年表、地図、名簿を収録する。また第三巻の別冊は教会と無教会との対論になっており、両者を比較考察する点で有益な視点を提供してくれる。

Nihon Fukuin Rūteru Kyōkai-shi 日本福音ルーテル教会史 (editor: FUKUYAMA Takeshi 福山猛) Tokyo: Nihon Fukuin Rūteru Kyōkai, 1954.

教会創立60周年記念事業の一環として企画された教会史。大正2年には伝道開始に二十周年記念として『日本福音ルーテル教会二十年史』が刊行されており、それに続くもの。

Nihon Seikōkai no Keisei to Kadai 日本聖公会の形成と課題 (author: TSUKADA Osamu 塚田理) Tokyo: Seikōkai Shuppan, 1978.

聖公会神学院が信徒を対象に開催した「信徒講座」のなかから重要なテーマを選び、担当講師がまとめたもの。

Nihon Purotesutanto/Kirisutokyō-shi 日本プロテスタント・キリスト教史 (author: DOHI Akio 土肥昭夫) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1980.

明治期から戦後までの日本プロテスタント教会史を扱ったものとして最もスタンダードなもの。社会的背景への目配りも行き届いている。

Nihon Purotesutanto Kyōkai no Seiritsu to Tenkai 日本プロテスタント教会の成立と展開 (DOHI Akio 土肥昭夫) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1975.

特定の教派ではなく、日本のプロテスタント教会全般に関する歴史的研究。

Nihon Purotesutanto Kyōkai-shi 日本プロテスタント教会史 (author: ONO Shizuo 小野静雄) 2 vols., Takehara (Hiroshima): Seikei Jusansho Shuppanbu, 1986.

改革派牧師による日本プロテスタント教会史。国家と教会との緊張関係を軸としたオーソドックスな手法を採用している。

Nihon Putrotesutanto-shi no Shomondai 日本プロテスタント史の諸問題 (Nihon Purotesutanto-shi Kenkyūkai 日本プロテスタント史研究会) Tokyo: Yūzankaku, 1983.

日本プロテスタント史の諸トピックスに対して専門家が考察を加えたもの。1950年に日本基督教団富士見町教会の一室に創設された日本プロテスタント史研究会による成果の一つである。

Nihon Purotesutanto Shiron 日本プロテスタント史論 (author: SUMIYA Mikio 隅谷三喜男) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1983.

近代プロテスタント教会史を社会的・歴史的視座から分析したもの。群馬県下の教会史やキリスト教の平和思想から日本キリスト教史の歴史的再検討を模索するものまでを含んでいる。

Senjika Hōrinesu no Junan 戦時下ホーリネスの受難 (author: YAMAZAKI Washio 山崎鷺夫) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1990.

1983年に刊行された『ホーリネス・バンドの軌跡』の新版。旧版のなかから宗教弾圧の証言と記録の部分だけを抜粋して刊行したもの。解散教会・牧師の一覧を付す。

B-2.4) その他

Nihon Seikyō-shi 日本正教史 (author: USHIMARU Yasuo 牛丸康夫) Tokyo: Nihon Harisutosu Seikyōkai Kyōdan Fushukyōchō, 1978.

日本正教史参考文献表、日本ハリストス正教会史年表を収録する。

Nihon Seisho Kyōkai Hyakunenshi 日本聖書協会100年史 (editor: Nihon Seisho Kyōkai 日本聖書協会) Tokyo: Nihon Seisho Kyōkai, 1975.

総論では聖書の由来や福音宣教との関係を述べ、各論では聖書和訳の歴史と聖書協会の歴史を叙述する。「日本聖書関係年表」が収録されている。

Nihon "Shūkyō" Sōran 日本「宗教」総覧 (吉成勇) Tokyo: Shin Jinbutsu Ōraisha, 1995.

日本キリスト教の歴史と諸相について簡明に概説したもの。また人名辞典、学校一覧、博物館等の紹介も充実しており、便利な一冊。

B-3) 概観的研究

Dochaku to Zassetsu 土着と挫折 (author: SAJI Takatsune 佐治孝典) Tokyo:

Shinkyō Shuppansha, 1991.

賀川豊彦論と天皇制とキリスト教を扱った章からなる。昭和天皇死去をはさむ執筆であり、近代日本キリスト教の総括として天皇の宗教性とキリスト教（プロテスタント）との関係を描写している。

Gendai Nihon no Kirisutokyō 現代日本のキリスト教 (editor: KUYAMA Yasushi 久山康) Nishinomiya (Hyōgo): Kirisutokyō Gakuto Kyōdaidan, 1961.

西谷啓治、高坂正顕、亀井勝一郎、椎名麟蔵、武藤一雄、猪木正道、北森嘉蔵、隅谷三喜男、武田清子、久山康（司会）で行われた討論のなかで、戦後15年の精神史のうちキリスト教に関する部分を収めたもの。

Jinja Mondai to Kirisutokyō: Nihon Kidai Kirisutokyō-shi Shiryō 1 神社問題とキリスト教 日本近代キリスト教史資料1 (editor: TOMURA Masahiro 戸村政博) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1980.

神社非宗教論にあらわれている国家神道の軌跡を今日的意義を形態を読み直すために編集された資料集。法令・法案と、それをめぐる諸教会側からの反応を示す資料を集成している。

Katorishizumu eno Kakehashi: Kobayashi Shizuo Ikō/Tsuitō Bunshū カトリシズムへのかけ橋 小林珍雄遺稿・追悼文集 (author: Kobayashi Yoshio Ikō/Tsuitō Bunshū Kankōkai 小林珍雄遺稿・追悼文集刊行会) Tokyo: Enderure Shoten, 1981.

岩下壮一、吉満義彦のあとを継いで日本カトリシズムにおける指導的立場にあった著者のアンソロジー。自己の信仰を語るものから、文学、政治、国家、出版に関するものまで多岐にわたる内容となっている。

Kindai Bungaku to Kirisutokyō: Meiji, Taishō Hen (Gendai Kirisutokyō Sōsho 7) 近代文学とキリスト教 明治・大正篇 (現代キリスト教選書 7) (author: YONEKURA Mitsuru 米倉充) Osaka: Sōgensha, 1983.

明治期から大正期にかけて展開されたキリスト教と不可分の文学活動を当時の文化的背景を考慮しつつ概観したもの。巻末に参考文献一覧が収録されており便利である。

Kindai Nihon no Katorisizumu: Shisōshiteki Kōsatsu 近代日本のカトリシズム 思想史的考察 (author: HANZAWA Takamaro 半澤孝麿) Tokyo: Misuzu Shobō, 1993.

近代日本思想史としてのカトリシズムを取り上げたほぼ唯一の書。岩下壮一、吉満義彦、田中耕太郎を取り扱っている。初出は最も早いもので1966年、最も遅いもの

で1980年とやや古いですが、この分野の研究書としてはいまだ必読といえよう。

Kindai Nihon no Kirisutokyō to Joseitachi 近代日本のキリスト教と女性たち (editor: Tomisaka Kirisutokyō Sentā 富坂キリスト教センター) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1995.

富坂キリスト教センターの研究プロジェクトの一つ「民衆女性と近代キリスト教」研究会による最初の論集。

Kindai Nihon Shakai Shisō-shi Kenkyū 近代日本社会思想史研究 (author: KUDŌ Eiichi 工藤英一) Tokyo: Kyōbunkan, 1989.

日本プロテスタント史研究の視点からさまざまな現実的諸問題に取り組んだ著者の集大成とでもいうべき成果。死後、著者が勤務していた明治学院大学有志により編集刊行された。

Kindai Tennōsei to Kirisutokyō: Dōshisha Daigaku Jinbunkagaku Kenkyūsho Kenkyū Sōsho XXV 近代天皇制とキリスト教 同志社大学人文科学研究so研究叢書 XXV (editor: Dōshisha Daigaku Jinbunkagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究so) Kyoto: Jinbun Shoin, 1996.

土肥昭夫による「総論近代天皇制とキリスト教」につづいて、第一部「近代日本のメディアにみる天皇制」、第二部「主要キリスト者における天皇制」、第三部「特定研究」という構成になっている。

Kirisutokyō to Buraku Mondai キリスト教と部落問題 (author: KUDŌ Eiichi 工藤英一) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1983.

内容は、「キリスト教における部落問題」、「部落問題とキリスト者の群像(今井寿道、安枝武雄等)」、「文学作品と部落問題(日露戦争期、島崎藤村、沖野岩三郎)」、「賀川豊彦と部落問題」。

Kirisutokyō to Daijōsai キリスト教と大嘗祭 (editor: Tomisaka Kirisutokyō Sentā 富坂キリスト教センター) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1987.

大嘗祭の問題を中心にキリスト教と天皇制国家との緊張感に満ちた関係を概観したもの。

Kirisutokyō to Nihonjin no Shūkyōkan キリスト教と日本人の宗教観 (author: TAKAGI Takako 高木孝子) Tokyo: Nansōsha, 1992.

ノートルダム清心女子大学教授で修道女である著者が日本人の宗教観におけるアウグスティヌス受容を中心に叙述したもの。

Meijiiki Kirisutokyō no Kenkyū 明治期キリスト教の研究 (author: SUGII Rokurō 杉

井六郎) Kyoto: Dōbōsha Shuppan, 1984.

フルベッキを中心とした宣教師の活動を明治期の政治・社会情勢との関連から考察したもの。

Mukyōkai no Ronri 無教会の論理 (author: HAKARI Yoshiharu 量 義治) Tokyo: Hokuju Shuppan, 1988.

従来、信仰運動として発展し、その神学を十分に備えてきたとはいいがたい無教会運動の神学を闡明した稀有な研究書である。著者自身も無教会のメンバーである。

Mukyōkai no Tenkai 無教会の展開 (author: HAKARI Yoshiharu 量 義治) Tokyo: Shinchi Shobō, 1989.

塚本虎二、三谷隆正、矢内原忠雄、関根正雄ら内村以後の後継者たちの思想を無教会思想の展開として理解し、その視点から教団の神学や韓国の民衆の神学を批判している。

Nagasaki o Hiraita Hito 長崎を開いた人 (author: Pacheco DIEGO [Pacheco DIEGO]) Tokyo: Chūō Shuppansha, 1969.

ザビエルとともに来日し、布教の指導者であり、長崎を腹枯れた貿易港の町とする考えを実現するのに貢献したコスメ・デ・トーレスを長崎という町の歴史と重ね合わせて叙述したもの。

Nihonjin to Iesu no Kao 日本人とイエスの顔 (author: INOUE Yōji 井上洋治) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppanyoku, 1990.

西洋的な男性原理にそったキリスト教の日本受容の限界を日本的な女性原理から批判的に考察したもの。

Nihonjin to Kami: Seikatsu, Jinsei Hen 日本人と神 生活・人生編 (author: FUKUDA Tsutomu 福田勤) Tokyo: San Pauro, 1999.

日本人のメンタリティにみられる「宗教的無神論」における内在的超越志向を高く評価したもの。著者はフランススコ会司祭の教理神学者。

Nihonjin to Kami: Tetsugaku, Shingaku Hen 日本人と神 哲学・神学編 (author: FUKUDA Tsutomu 福田勤) Tokyo: San Pauro, 1995.

日本人フランススコ会司祭による日本の宗教性に対する神学的アプローチ。京都学派の絶対無や滝沢克己・八木誠一らの神学に対し、その意義を高く評価しつつ、カトリシズムの立場からの批判を加えている。

Nihonjin to Kirisutokyō 日本人とキリスト教 (editors: ECHIZEN Kiroku 越前喜六, SAITŌ Itsuko 斎藤いつ子) Tokyo: Joshi Paurokai, 1979.

上智大学教員を中心に、日本人とキリスト教との出会いを概観した一般書。

Nihonjin vs Kirisutokyō 日本人 vs. キリスト教 (author: GOTŌ Masaru 後藤優)
Tokyo: Hokuju Shuppan, 1989.

日本人にとって本来異質な文化性をもつキリスト教を、比較宗教学的に対比させた簡潔な書物。

Nihon Katorikku Shakaijigyō-shi Kenkyū 日本カトリック社会事業史研究 (author: TASHIRO Kikuo 田代菊雄) Tokyo: Hōritsu Bunkasha, 1989.

キリシタン期から第二次世界大戦後に至るまでの近代日本におけるカトリック社会福祉事業を概観できるほぼ唯一の書である。巻末に関係年表とカトリック系社会福祉施設の一覧が収められている。

Nihon Kirisutokyō Kyōiku-shi: Jinbutsu Hen 日本キリスト教教育史・人物篇 (editor: Kirisutokyō Gakkō Kyōiku Dōmei キリスト教学校教育同盟) Tokyo: Sōbunsha, 1977.

近代日本におけるプロテスタント系諸学校の創設運営に関わった主要人物を紹介したもの。司牧、学術以外の分野での人物研究はさほど進んでおらず、教育分野もその例外ではない。この点で便利な書物である。ただしカトリックには言及されていない。

Nihon Kirisutokyō Shakaikeizai-shi Kenkyū 日本キリスト教社会経済史研究 (author: KUDŌ Eiichi 工藤英一) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1980.

明治前期のプロテスタント史を社会科学的視座から考察しようとしたもの。内容としては、「明治初年の士族層とキリスト教」、「明治の農村社会とキリスト教」、「明治の地方産業とキリスト教」など。

Nihon Kirisutokyō Jidō Bungaku 日本のキリスト教児童文学 (editor: Nihon Jidō Bungaku Gakkai et al. 日本児童文学学会他) Tokyo: Kokudoshā, 1995.

キリスト者に限定されない日本の児童文学研究者たちがまとめたキリスト教児童文学に関する論集。類書はほとんどなく貴重な成果である。総説から諸相の分析、さらには各作家論が収録されており、この分野を概観するのに有益な一冊である。

Nihon niokeru Kirisutokyō Joshi Kyōiku-shi: Nōtorudamu-Seishin Gakuen o Chūshin-toshite 日本におけるキリスト教女子教育史 ノートルダム清心学園を中心として (author: TAKAGI Takako 高木孝子) Tokyo: Nansōsha, 1991.

1924年から1978年までのナミュール・ノートルダム修道女会、ウォルサム管区のアメリカ人シスターと日本人シスターのキリスト教女子教育活動について、当会に所属するシスターが論じたもの。

Nihon no Nōson Dendō-shi Kenkyū 日本の農村伝道史研究 (author: INUMA Jirō 飯沼二郎) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1988.

日本農村伝道史研究の嚆矢というべき著作。第一部歴史篇では原資料をもとに解説し、第二部理論篇では著者の理論的主張が社会構造への考察を基盤に展開されている。

Nihon no Sakka to Kirisutokyō: Nijūnin no Sakka to Kirisutokyō 日本の作家とキリスト教 二十人の作家の軌跡 (author: KUBOTA Gyōichi 久保田暁一) Tokyo: Chōbunsha, 1992.

北村透谷から遠藤周作までのいわゆるキリスト教文学を22人の作家ごとに分析したものの。入門書としては標準的な規模と水準を有している。

Nihon no Shūkyō to Kirisuto no Michi 日本の宗教とキリストの道 (author: KADOWAKI Kakichi 門脇佳吉) Tokyo: Iwanami Shoten, 1997.

宗教間対話を積極的に促進してきた日本人イエズス会司祭が日本の伝統宗教の祖師たちが示してきた思想とキリストの精神との共通点を探ったもの。

Nihon Seishin-shi to Kirisutokyō 日本精神史とキリスト教 (author: SEKINE Bunnosuke 関根文之助) Tokyo: Sōbunsha, 1962.

聖書翻訳を手掛かりに日本思想史と日本プロテスタント史の出会いを比較考察したものの。

Senjika Kirisutokyō no Teikō to Zassetsu 戦時下キリスト教の抵抗と挫折 (author: KANEDA Ryūichi 金田隆一) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1985.

戦時下におけるキリスト教の抵抗姿勢を矢内原忠雄のような個人や、日本基督教団、日本基督教会といった教団について、一次資料に豊富に言及しつつ、その限界を明らかにしたものの。

Senjika Teikō no Kenkyū 戦時下抵抗の研究 (editor: Dōshisha Daigaku Jinbunkagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究所) 2 vols., Tokyo: Misuzu Shobō, 1968.

同志社大学人文科学研究所が「戦時下におけるキリスト者ならびに自由主義者の抵抗」というテーマで、資料蒐集とともに行った研究成果をまとめたもの。キリスト者が中心であり、キリスト教に関係する範囲で自由主義者に関するものが収録されている。

Tennō no Daigawari to Watashitachi 天皇の代替わりとわたしたち (editors: DOHI Akiō 土肥昭夫、TOMURA Masahiro 戸村政博) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1988.

来るべき昭和天皇死去に対して、キリスト教界がいかに対応すべきかを模索したものの。まず過去の代替わりの事例を歴史的に振り返り、そしてキリスト教側の今後の

対処の姿勢を論考と対談の中で模索している。

Tennōsei to Kankoku Kirisutokyō 天皇制と韓国キリスト教 (author: KURATA Masahiko 蔵田雅彦) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1991.

韓国留学の経験もある韓国キリスト教専門家による日本統治下韓国におけるキリスト教会の動向を、ことに神社参拝問題を中心に概観したもの。

B-4) 主要人物研究

Arai Ōsui Sensei 新井奥邃先生 (author: NAGASHIMA Tadashige 永島忠重) Tokyo: Ōzorasha, 1991.

1933年(昭和8年)に奥邃の弟子によって書かれた伝記の復刻版。巻末に誤植正誤表、補遺が収められている。

Ebina Danjō: Hito to Shisō Shirīzu II 海老名弾正 人と思想シリーズ II (author: IWAI Fumio 岩井文男) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1973.

いわゆる熊本バンドの代表的な存在である海老名弾正についての簡潔な評伝。

Eienno Shijin Tetsugaksha Yoshimitu Yoshihiko: Kiten 50nen ni Yosete 永遠の詩人哲学者 吉満義彦 帰天50年によせて (editor: Yoshimitsu Yoshihiko Kiten 50 Shūnen Kinen Shuppan no Kai 吉満義彦帰天50周年記念出版の会) Tokyo: Don Bosukosha, 1997.

昭和初期に活躍したカトリック哲学者にして神学者の吉満義彦に関する思想的解説を追想集。

Fujita Wakao Kenkyū Nōto: Kirisutokyō Shakaishisō no Tankyū 藤田若雄研究ノート キリスト教社会思想の探究 (author: ŌKAWARA Reizō 大河原礼三) Tokyo: Bokutakusha, 2000.

労働問題の専門家であり無教会に属した藤田若雄に関する手ごろな研究書。無教会が社会問題においてどのような姿勢をとったかを概観するのに便利である。

Fukuzawa Yukichi to Senkyōshitachi: Shirarezaru Meijiki no Nichieikankei 福沢諭吉と宣教師たち 知られざる明治期の日英関係 (author: SHIRAI Takako 白井堯子) Tokyo: Miraisha, 1999.

福沢は個人としても、また慶応関係者としても多くも宣教師と密接な関係を保持していた。福沢とユニテリアリズムの関係など興味深い考察が収録されており、今後ますます光が当てられるべき研究分野の嚆矢となる著作である。

Gendai ni Ikiru Uchimura Kanzō 現代に生きる内村鑑三 (author: UCHIDA Yoshiaki 内田芳明) Tokyo: Iwanami Shoten, 1991.

ドイツ社会思想研究家の手になる内村研究。

Hatano Seiichi: Hito to Shisō Shirīzu 波多野精一 人と思想シリーズ (author: MIYAMOTO Takenosuke 宮本武之助) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1965.

日本における宗教哲学を世界的水準にまで引き上げた波多野精一に関する簡明な概説書。評伝というよりも思想の解説とう性格が強い。

Honda Yōitsu 本多庸一 (editor: Aoyama Gakuin 青山学院) Tokyo: Aoyama Gakuin, 1968.

メソジスト派に属する宣教師として信徒によって創設された青山学院の第二代院長本多庸一の伝記。年表と参考文献表を収録。

Jinbutsu Chūshin no Nihon Katorikku-shi 人物中心の日本カトリック史 (author: IKEDA Toshio 池田敏雄) Tokyo: San Pauro, 1998.

キリシタン開教期のフランシスコ・ザビエルから近年にいたるまで活躍した志村辰弥神父まで、日本カトリック史上の主要人物80余名を紹介した人物論。いずれもあくまでカトリシズムに貢献した人物として肯定的に紹介されている。

Kaizoku no Matsuei: Haran ni Tonda Kibe Shinpu no Monogatari 海賊の末裔 波乱にとんだ岐部神父の物語 (author: H. CHISURIKU [Huebert CIESLIK]) Tokyo: Chūō Shuppansha, 1969.

キリシタン研究の第一人者による、日本二十六殉教聖人の一人、ペトロ岐部神父のごく平明な評伝。

Kashiwagi Gien Kenkyū Josetsu: Jōmō no Kirisutokyō Seishinshi 柏木義円研究序説 上毛のキリスト教精神史 (author: KUBO Senichi 久保千一) Tokyo: Nihon Keizai Hyōronsha, 1998.

標題が示す柏木義円の社会思想に関する研究と、柏木を生んだ上毛(群馬県)のキリスト教精神史にまつわる諸稿の二部構成になっている。年譜や参考文献も収録されている。

Kindai Nihon Kirisutosha no Shinkō to Rinri 近代日本キリスト者の信仰と倫理 (author: UNUMA Yūko 鵜沼裕子) Ageo (Saitama): Seigakuin Daigaku Shuppankai, 2000.

プロテスタント思想家において無視されがちな深い秘儀的な体験に光を当てる試み。植村正久、内村鑑三、新渡戸稲造、三谷隆正、賀川豊彦、逢坂元吉郎を扱っている。

Kindai Nihon no Kirisutokyō Shisōkatachi 近代日本のキリスト教思想家たち (author: UNUMA Yūko 鵜沼裕子) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppanyoku, 1988.

著名なキリスト教思想家の思想を簡明に解説したもの。入門書としてふさわしい水準をそなえているが、文献表や年表等は収録されていない。

Kirishitan ni Natta Daimyō キリシタンになった大名 (author: YŪKI Ryōgō 結城了悟) Tokyo: Kirishitan Bunka Kenkyūkai, 1986.

日本に帰化したスペイン出身のイエズス会士で、キリシタン研究の指導的立場にある著者が、キリシタン大名について詳しく紹介している。堅実かつ簡明な内容で入門書としてすぐれたものである。

Kirishitan no Seika Garasha Hosokawa Tamako Fujin: Seitan Yonhyakunen Kinen 貴理至端之精華 伽羅奢細川玉子夫人 生誕四百年記念 (author: MIYAJIMA Shin'ichi 宮島真一) Tokyo: Chūō Shuppansha, 1965.

細川忠興夫人ガラシア玉子に関する通俗的な評伝。

Kirisuto ni Naraitē: Iwashita Sōichi Shinpu Eien no Omokage キリストに倣いて 岩下壮一神父永遠の面影 (editor: Monikku HARAYAMA モニック原山) Tokyo: Gakusha, 1991.

昭和初期のカトリシズムにおいて多大な影響を与えた岩下壮一神父の追想集。続刊も刊行されており、そこには遺稿が収録されているとともに、岩下の冷静だがいささか超俗的な戦争観を知ることができる。

Meiji Jinbutsu Jūi Monogatari: Kirisutokyō no Ichikeifu 明治人物拾遺物語 キリスト教の一系譜 (author: AKIYAMA Shigeo) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1982.

『白金通信』という明治学院大学の機関紙に明治学院関係者を紹介してきた著者が、同趣旨の人物像を一冊の本にまとめたもの。主要参考文献目録付き。続編も刊行されている。

Mitsuya Masataka no Sei to Shi 三谷隆正の生と死 (editor: "Mitsuya Masataka no Sei to Shi" Kankō Inkaishi 『三谷隆正の生と死』刊行委員会) Tokyo: Shinchi Shobō, 1990.

Mori Akira: Hito to Shisō Shirizu II 森明 人と思想シリーズ II (author: SHIMIZU Jirō 清水二郎) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppanyoku, 1975.

明治政府初代文部大臣森有礼の息子で、大正期にキリスト教と日本を、歴史とともにあって歴史にはたらく神と、その同労者としての日本人という視点から模索した森明に関する簡明なる評伝。

Nihon Seikōkai no Sōsetsusha: C.M.Wiriamuzu Shukyō Shōden 日本聖公会の創設者

C. M. ウィリアムズ主教小伝 (author: B.D. TAKKĀ [Beverley D. TUCKER] B. D. タッカー) Tokyo: Seikōkai Shuppan, 1999.

エピソードを集めた評伝ではなく、学術専門誌のために執筆されており、伝説的な逸話を排除する姿勢がとられている。ウィリアムズを時代の大きな文脈の中で捉えようとするもの。略年表が収録されている。

Nijima Jō: Hito to Shisō Shirizu II 新島襄 人と思想シリーズ (author: WADA Yōichi 和田洋一) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1973.

同志社の創立者である新島襄に関する簡明な評伝。

Nijima Jō: Jiyū eno Senryaku 新島襄 自由への戦略 (author: YOSHIDA Hiroji 吉田曠二) Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1988.

Nijima Jō Sensei no Shōgai 新島襄先生の生涯 (author: MORINAKA Akimitsu 森中章光) Tokyo: Fuji Shuppan, 1990.

Nijima Jō to Āmosuto Daigaku 新島襄とアーモスト大学 (author: KITAGAKI Muneharu 北垣宗治) Kyoto: Yamaguchi Shoten, 1993.

Petoro Kibe: Tsuihō, Sennyū, Junkyō no Michi ペトロ岐部 追放・潜入・殉教の道 (author: MATSUNAGA Goichi 松永伍一) Tokyo: Chūō Kōronsha, 1984.

詩人であり民俗学的評論家である著者による日本人殉教者ペトロ岐部神父の一般的評伝。

Purotesutanto Jinbutsushi プロテスタント人物史 (author: Kirisutokyō Bunka Gakkai キリスト教文化学会) Tokyo: Yorudansha, 1990.

Putijan Shikyō: Kirishitan Fukkatsu no Chichi プティジャン司教 キリシタン復活の父 (author: EGUCHI Genichi 江口源一) printed in Nagasaki, 1991.

プテウイジャン司教を通年的に取り扱った評伝として詳細なもの。貴重な写真も収録して理解を助けてくれる。

Seijin Nikorai Jisekiden 聖人ニコライ事蹟伝 (editor: Nihon Harisutosu Seikyōkai Sōmukyoku 日本ハリストス正教会総務局) Tokyo: Sasaki Komazō, 1936.

栄山準行編『大主教ニコライ師事蹟』や府主教セリギイ師『大主教ニコライ師永眠前後』等を収録している。

Senkyōshi Wiriamuzu no Dendō to Shōgai: Bakumatsu, Meiji Beikoku Seikōkai no Kiseki 宣教師ウィリアムズの伝道と生涯 幕末・明治米国聖公会の軌跡 (author: ŌE Mitsuru 大江満) Tokyo: Tōsui Shobō, 2000.

Shunretsunaru Dōsatsu to Kan'yō: Uchimura Kanzō o Megutte 峻烈なる洞察と寛容
内村鑑三をめぐる (author: TAKEDA Kiyoko 武田清子) Tokyo: Kyōbunkan,
1995.

内村鑑三の思想を新渡戸稲造や柏木義円さらには鑑三の弟子たちの思想との関係から探ったもの。日本のプロテスタンティズムをイギリスのピューリタン革命になぞらえるユニークな論考も収められている。

Takayama Ukon 高山右近 (author: Antonio SERUMENIO [Antonio CERMENIO])
Tokyo: San Pauro, 1997.

スペイン人イエズス会士の手になる簡明な一般向け評伝。

Takayama Ukon no Shōgai 高山右近の生涯 (author: Yohanesu RAURESU [Johannes LAURES])
Tokyo: Chūō Shuppansha and Enderle, 1948.

キリシタン大名のうち最も著名といえる高山右近を、上智大学教授だったヨハネス・ラウレスがまとめた通史的研究書。あくまでカトリックの側からの視点に立脚した叙述である。

Tanaka Shōzō: Nijūichi Seiki eno Shisōjin 田中正造 二一世紀への思想人
(author: KOMATSU Hiroshi 小松裕) Tokyo: Chikuma Shobō, 1995.

Tosa kara Hawai e: Okumura Takie no Kiseki 土佐からハワイへ 奥村多喜衛の軌跡
(author: NAKAMURA Fusa 中村芙佐) Kōchi: "Okumura Takie to Hawaii Nikkei Iminten" Jikkō Inka, 2000.

ハワイの日系社会で活躍した高知出身の牧師で、日米戦争の狭間で苦闘した人物の評伝。主要部分の英訳が収録されており、便利である。

Uchimura Kanzō: Hito to Shisō Shirīzu 内村鑑三 人と思想シリーズ (author: DOHI Akio 土肥昭夫)
Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppanyoku, 1962.

無教会の創始者である内村鑑三に関する簡明かつ信頼できる評伝。

Uchimura Kanozō Fukei Jiken 内村鑑三不敬事件 (author: OZAWA Saburō 小沢三郎)
Tokyo: Shinkyō Shuppansha, 1961.

Uchimura Kanzō Igo Yonjūnen 内村鑑三以後四十年 (editor: SUZUKI Toshirō 鈴木俊郎)
Tokyo: Iwanami Shoten, 1971.

内村鑑三死後四十年を経て、その思想を継承する者によって企画された講演会の内容を編んだ小著。内村の思想的イメージを知るには手ごろなものと言えよう。

Uchimura Kanzō Nichiroku 内村鑑三日録 (author: SUZUKI Norihisa 鈴木範久) 12 vols.,
Tokyo: Kyōbunkan, 1993–99.

内村の生涯に間する詳細な解説書。編年体を取り、内村の思想的展開を詳しく跡付けることが可能である。

Uchimura Kanzō no Shōgai: Kindai Nihon no Kirisutokyō no Kōgen o Mitsumete 内鑑三の生涯 近代日本のキリスト教の光源を見つめて (author: OHARA Shin 小原信) Tokyo/Kyoto: PHP Kenkyūsho, 1992.

内村鑑三の評伝としては最も詳細でわかりやすいもの。同出版社から文庫版も刊行されている。

Uchimura Kanzō o Keishōsita Hitobito 内村鑑三を継承した人々 (author: FUJITA Wakao 藤田若雄) 2 vols., Tokyo: Bokutakusha, 1977.

上巻「敗戦の神義論」、下巻「十五年戦争と無教会二代目」。

“Uchimura Kanzō” to Deatte 「内村鑑三」と出会って (editors: HORI Takahiko 堀孝彦, KAJIWARA Hisashi 梶原寿) Tokyo: Keisō Shobō, 1996.

かつて内村も在籍した名古屋英和学校の後進である名古屋学院大学の近代思想史研究会による内村鑑三の学際的研究。心理学、生態学、倫理学、思想史学、宗教学の各分野からアプローチしている。

Uchimura Kanzō to Sono Jidai: Shiga Shigetaka tono Hikaku 内村鑑三とその時代 志賀重昂との比較 (author: SUZUKI Norihisa) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1975.

内村研究における現代の第一人者による人物論的研究。札幌農学校後輩で元来内村と似た境遇にありながら、内村とは異なり宗教思想を展開するには至らなかった志賀を比較対照しつつ、内村像を描写している。一般的で簡明な叙述である。

Uemura Masahisa to Sono Jidai 植村正久と其の時代 (editor: SABA Wataru 佐波巨) 7 vols. & ii vols., Tokyo: Kyōbunkan, 1938, 1976 (reprint).

明治期に福音主義信仰を推進し、諸刊行物を通じ幅広い評論活動を行った著者の詳細な研究。その内容は広範に及んでいる。また貴重な写真類も多く収録されている。

Yamamuro Gunpei: Hito to Shisō Shirīzu II 山室軍平 人と思想シリーズ (author: TAKAMICHI Motoi 高道基) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppankyoku, 1973.

近代日本における救世軍の指導者、山室軍平に関する標準的な評伝。

Yanaihara Tadao: Hito to Shisō Shirīzu II 矢内原忠雄 人と思想シリーズ (author: NISHIMURA Hideo 西村秀夫) Tokyo: Nihon Kirisutokyōdan Shuppan-

kyoku, 1975.

内村鑑三門下で最も著名な人物の一人である矢内原忠雄に関する簡明な評伝。

Yanaihara Tadao Den 矢内原忠雄伝 (author: YANAIHARA Isaku 矢内原伊作)
Tokyo: Misuzu Shobō, 1998.

c) 文献集成、写真集、索引、目録、事典類

Ajia niokeru Kirisutokyō Hikaku Nenpyō アジアにおけるキリスト教比較年表 (editor: Kokusai Kirisutokyō Daigaku Ajia Bunka Kenkyūsho 国際基督教大学アジア文化研究所) Tokyo: Sōbunsha, 1983.

Dainikai Tōzai Reisei Kōryū 第二回東西靈性交流 (editor: Zenbunka Kenkyūsho 禅文化研究所) Kyoto: Dainikai Tōzai Reisei Kōryū Iinkai, 1984.

1983年に実施された第二回東西靈性交流のスナップ集。日本の禅堂での体験が中心となっている。

Katorikku Shūdōshi no Zendō Taiken: "Dainikai Tōzai Reisei Kōryū" Hōkoku カトリック修道士の禅堂体験 「第二回東西靈性交流」報告 Kyoto: Dainikai Tōzai Reisei Kōryū Iinkai, 1984.

1979年に開始された東西靈性交流の第二回(1983年)としてヨーロッパのカトリック修道者が日本の禅寺・専門道場を訪れたが、その際の感想をもとに、シンポジウムおよび帰国後の論考を収録している。

Kirisutokyō Nenkan (Fukkōkuban) 基督教年鑑(復刻版)(Nihon Kirisutokyōkai Dōmei 日本基督教同盟, Nihon Kirisutokyō Renmei 日本基督教連盟) 24 vols., Tokyo: Nihon Tosho Sentā, 1994.

大正初期からアジア太平洋戦争回線にいたる激動期のキリスト教各派の活動を伝える唯一の年鑑の復刻版。大正5年版から昭和16年版まで。

Kirisutokyō Shinbunkiji Sōran キリスト教新聞記事総覧 (editor: Dōshisha Daigaku Jinbunkagaku Kenkyūsho 同志社大学人文科学研究所) 10 vols., Tokyo: Nihon Tosho Sentā, 1996.

近代日本プロテスタント三大系統主要14誌の詳細な目次と人名索引を備え、各紙誌の目次、社説、論説、説教、随筆、評論、記録、報告等のすべての記事を発行順に掲載している。マイクロ版『近代日本キリスト教新聞集成』と完全に対応している。

Tōkyō Kokuritsu Hakubutsukan Zuhān Mokuroku: Kirishitan Kankei Ihin Hen 東京国立博物館図版目録 キリシタン関係遺品篇 (editor: Tōkyō Kokuritsu Hakubutsu-

kan 東京国立博物館) Tokyo: Tōkyō Bijutsu, 1972.

Tōzai Reisei Kōryū no Seika 2: Seiou Shūdōin no Hankyō 東西靈性交流の成果 (2)

西欧修道院の反響 (editor: ANZAI Shin 安齋伸) Tokyo: Sekai Shūkyōsha
Heiwa Kaigi Nihon Iinkai Heiwa Kenkyūsho, 1985.

1979年に開始された「東西靈性交流の旅」(上智大学東洋宗教研究所、南山宗教文化研究所、花園大学禅文化研究所、西独[当時]ポンの東アジア研究所[Ostasien Institut]共催)における受け入れ側であるヨーロッパの修道院が抱いた感想を収録したもの。

Zensō no Katorikku Shūdōin Seikatsu Taiken: "Daisankan Tōzai Reisei Kōryū" Hōkoku
禅僧のカトリック修道院生活体験 「第三回東西靈性交流」報告 (editor:
Daisankai Tōzai Reisei Kōryū Henshū Iinkai 第三回東西靈性交流編集委員会)
Kyoto: Daisankai Tōzai Reisei Kōryū Henshū Iinkai.

1979年から始まった東西靈性交流の第三回(1983年)に関する体験記。受け入れ側のヨーロッパ修道院と訪問側の日本禅宗側双方によるもの。

* この文献目録の作成に当たり、日本学術振興会科学研究費の助成を得た。

(和歌山信愛女子短期大学助教授)